

旭川と上川盆地の地質

上川盆地は、約 1 億 5 千万年前から 5 千万年前の岩盤の上、神居古丹変成帯とイドンナップ帯の山々の間に形成されました。その後の火山噴火によって大雪山の地形が形成され、盆地の一部が埋まり、旭川のある広い平野が形成されました。

上川盆地の岩盤

盆地の岩盤は、太古の海洋プレートがユーラシアプレートの下に沈み込んだときに形成されました。プレートが下降するにつれて、堆積物や岩石の一部は地殻の奥深くに運ばれ、そこで強い圧力によって変成岩に変化しました。他の堆積物や岩石は大陸プレートの端に集積し、付加体を形成しました。これらの岩石の集積が、それぞれ神居古丹変成帯とイドンナップ帯の山々になりました。

北海道と上川盆地の形成

北海道を含む日本列島の島々は、およそ 1,500 万年前にプレート運動によってアジア大陸の一部が分断され、日本海が形成・拡大したことで誕生しました。海が拡大するにつれて、分断された島々は東に移動し、盆地の岩盤は海面上に押し出されました。上川盆地は、その結果できた山地の間の窪地として形成されました。

火山活動

1,500 万年前から 260 万年前にかけて火山活動が活発化し、米飯山や旭岳など盆地周辺にいくつかの火山が形成されました。その後、大規模な噴火が続き、260 万年前から 80 万年前にかけて火砕流が盆地を部分的に埋めていきました。後に、大雪山火山群が形成されましたが、その最高峰が旭岳（2,291m）です。旭岳は現在も活動を続けており、最後の噴火は 18 世紀半ばでした。